

平成22年度 大津百町・登録有形文化財調査一覧 【1～2 答申済 3 申請中、4、5 未申請】

1-1 森本家住宅主屋 嘉永2年（1849）[鬼瓦銘]

木造2階建、瓦葺、建築面積 184.02㎡

江戸末期の米商いが盛んだった浜通りに残る大津の町家で、通りに面した妻壁の漆喰大壁造が通りの景観を印象付けており、昭和初期の改造の手法として、表屋造りの表屋をなくし、高塀を設けた大塀造りにしたことも重要な特徴を持つ建造物である。



1-2 森本家住宅門塀 昭和初期 [推定]

木造高塀、瓦葺、建築長さ 17.29m

角地にある大規模な大津の町家の高塀の中でも数少ない形式のひとつ。石工だった森本家が昭和初期に屋敷を購入し、官有地道路敷きの占用取り消し（道路拡幅）に伴い、建築。踏込石や敷石を用いた石畳などふんだんに使用されている石も印象深い。



2-1 小川家住宅主屋 江戸末期 [推定]

木造2階建、瓦葺、建築面積 72.50㎡

江戸末期の最小間口の大津の町家の構造を残し、昭和初期の官有地道路敷きの占用取り消し（道路拡幅）に、当時の祭の生活文化の影響を受けた改造がなされ、その手法として屋根を高さ方向に増築した建造物である。



2-2 小川家住宅土蔵 江戸末期 [推定]

土蔵造3階建、瓦葺、建築面積 19.82㎡

土戸と網板戸の2枚の引き戸、さらに観音開きの土扉が付き、鳥居枠もある小規模ながらも重厚な意匠を持つ。また、町家の主屋と土蔵は、ハレの支度、祭のしつらえの保管場所という不可分の関係ともいえる。



3-1 豆信料亭 大正7年（1918）[文書]

木造2階建、瓦葺、建築面積 169.82㎡

大正期に料亭旅館として建てられた数少ない料亭旅館建築で、昭和初期の官有地道路敷きの占用取り消し（道路拡幅）に伴い、昭和9年（1934）向かいに住む山岡長兵衛棟梁により現在の形に改築された。旅館は廃業し、現在は料亭として営業、通りに面した外観に昭和初期の意匠を残す建造物である。



建築当初の外観古写真

3-2 豆信料亭門塀 昭和9年（1934）[記録・工事請求書]

木造高塀、瓦葺、建築長さ 8.19m

浜通りの角地に建てられた料亭と景観及び機能的にも一体として昭和初期に建てられた門塀であり、通りの町並み景観を特徴付ける重要な建造物である。



3-3 豆信蔵 大正期 [推定]

木造2階建、瓦葺、建築面積 33.21㎡

大正期に建てられた料亭の背面、庭を挟んで位置し、入母屋の妻面を料亭側に見せる。料亭の2階広間縁先からの眺めを意識し、倉庫としては格高い入母屋造の離れの意匠を持つ蔵で、通りから望見できないものの料亭と一体の建造物である。



4-1 中野家住宅主屋

木造2階建、瓦葺



4-2 中野家住宅離れ

木造平屋建、瓦葺

4-3 中野家住宅土蔵

土蔵造2階建、瓦葺



5-1 中野家住宅主屋（でんや）

木造2階建、瓦葺

